

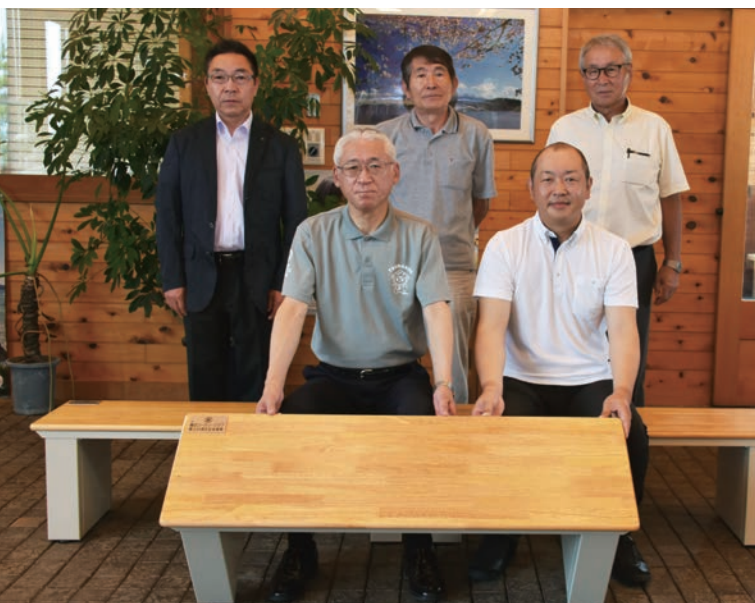
多くの方に長く使って欲しい

鶴田ロータリークラブ（坂本幸光会長）は7月12日（月）、創立50周年を記念し、町にベンチ5基を寄贈しました。寄贈されたベンチはJR陸奥鶴田駅に併設する町コミュニティプラザに設置されました。

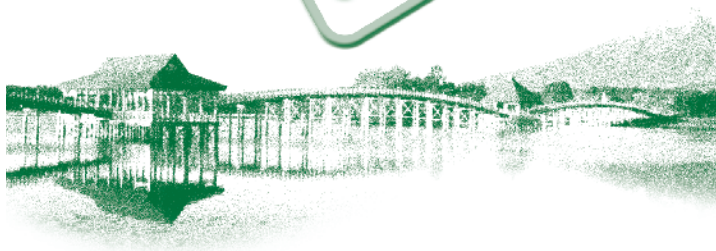
同クラブは2020年度に創立50周年を迎えたことを記念して、20年度事業として町民が長く使える品を贈ろうと、ベンチを寄贈。

当日は、坂本会長や前年度の小関前会長、相川町長らが納品に立ち会いました。

小関前会長は「駅を利用する人に長く使ってもらえたらうれしいです」と話していました。ベンチを受け取った相川町長は「ベンチの数が足りなかったの、寄贈していただき大変ありがたいです」と感謝を述べていました。



△ベンチを寄贈したクラブのメンバーと相川町長



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

小学生たちが”税の重み”を知る

鶴田小学校で7月13日（火）、税金の仕組みについて学ぶ「租税教室」が行われ、同校6年生85人が税金の種類や使われ方について理解を深めました。

租税教室は五所川原税務署の依頼を受け、町が毎年開催しているものです。町税務会計課職員が講師を務め、税金の種類や何に税金が使われているのかをクイズ形式で出題すると、多くの児童が元気よく手をあげて、回答していました。また、児童たちは税金がない世界を描いたアニメを見た後、紙幣1億円分の重さを再現したアタッシュケースを持ち、「税の重み」を体験していました。

授業を受けた児童は「普段の私たちの生活に税金が必要なものと改めて思いました」と話していました。



△紙幣1億円分の重みのケースを持ち、「税の重み」を体験

再生可能なエネルギーに理解

7月20日（火）、鶴田小学校の4年生約90人が、グリーンパワーインベストメントの出前授業を受け、つがる市にある日本最大規模の風力発電所「ウィンドファームつがる」を見学。子どもたちは再生可能なエネルギーについて理解を深めました。

同発電所は2020年4月から運転を開始。発電規模は12万1600キロワットで、県の総世帯の6分の1、約9万世帯程度の消費電力をまかなうことができます。

発電所見学前に学校で講義が行われ、同発電所には景観を守るために高さの異なる2種類の風車があることや電気を使うと二酸化炭素を排出するので、節電することの大切さを学んでいました。施設見学では、普段は見るできない風車の内部を見学しました。



△風車の内部を見学する児童たち



△子どもたちを見守る参加者たち

夏休み前に事故防止を呼びかけ

夏の交通安全県民運動（実施期間：7月21日～31日）に合わせて、7月21日（水）に、安全で安心な社会の実現に向けた交通安全活動の一環として、鶴田小学校校門前で「声かけ運動」が行われました。

「声かけ運動」には、町交通安全協議会と町交通安全母の会連合会、町保護司会、町学校・家庭・地域連携総合推進会議の4団体約20人が参加。

参加者たちは「子どもに注意」と書かれたのぼり旗を持ってドライバーに注意を促したり、子どもたちへ「車に気をつけてください」と声かけを行い、夏休み前の子どもたちへ注意を促していました。



Vol.37（筆：山田園実）

お久しぶりです。山田園実です！出産・育児のため協力隊の任期を中断しておりましたが、先月より復帰しました。残り約1年、鶴田町のPRや商品開発、ぶどう農家としてのスキルアップ等がんばっていきたいと思っているのでよろしくお願いします。

スチューベン畑は房作りと2回目の摘心を終え、そろそろ色づく頃。黒くて甘いぶどうになるよう祈るばかりです。今年はぶどう狩りも実施する予定なのでぜひ遊びにきてください。実りの秋にどんなスチューベンが収穫できるか、ドキドキワクワクです！！



△鶴田八幡宮の宵宮を楽しむ園実さんと芽依ちゃん

山田さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。